

作業報告書

平素は弊社医用製品をご愛用いただき厚くお礼申し上げます。ご依頼内容にもとづき、メンテナンス等作業(納品)を行いましたので、ご報告いたします。作業報告書記載事項内容及び留意事項をご確認の上、ご署名をお願いいたします。

お客様名 山口大学医学部附属病院 様		山口サービスセンタ 〒754-0013 山口県山口市小郡緑町5番2号 TEL 083-973-7677 FAX 083-973-7684	
--------------------------	--	---	--

お客様ID 65195030000-111	受付番号 6587292	作業 CS	区分 2H	保証区分 保守契約	PJ番号 MC4022140101
--------------------------	-----------------	----------	----------	--------------	----------------------

装置名 MRT-3020/J9	設置室 MR検査室4	据付日 2018年12月27日
--------------------	---------------	--------------------

ご依頼内容 保守点検2024年12月/定期点検2024年12月 作業開始・終了時間 開始 2024年12月27日09時00分 終了 2024年12月27日14時00分 時間内 4 時間外 0.5 往復 0 合計 4.5	作業内容 定期点検報告書に基づく保守点検作業実施 詳細は点検報告書に記載 完了
--	--

ユニット MRT-3020/J9	製造番号 J9B18Y2003	作業担当者 青木 航太 他0名
---------------------	--------------------	--------------------

使用部品		数量
1 以下余白	図番	
2	図番	
3	図番	
4	図番	
5	図番	

ご所属 ご署名 山根

お客様へ(留意事項のご説明)

- ※本作業(納品)に関するお問い合わせは、作業報告書記載の受付番号をお願いいたします。また、本作業が有料の場合、別途ご請求申し上げます。
- ※本作業及び本作業に付随して提供するサービス部品、資料等の物品は、お客様が日本国内で使用または費消されることを前提に販売・提供させて頂いております。輸出または海外に提供される場合には、輸出管理法により規制される場合がございますのでご注意ください。
- ※お客様の個人情報の取り扱いについて、以下の事項をご了承願います。
 1. 作業報告書記載作業の遂行に関連して、お客様よりご提示を受けましたお客様の代表者その他の役職員の個人情報(以下「お客様情報」といいます)につきましては、今後のお客様に対する保守サービス業務の遂行およびお客様に対する各種商品・サービスのご提供やご案内に使用させて頂きます。
 2. 弊社は、上記「1」の使用目的の範囲内において、必要に応じて、お客様情報を弊社認定のもと、弊社が委託する会社へ開示し、使用させて頂く場合がございます。
- ※交換修理に伴い発生しました使用済みサービス部品(作業報告書『使用部品』欄記載の使用部品の提供と交換に回収する使用済みサービス部品)につきましては、本作業の完了日をもって弊社が受領し、当該サービス部品の所有権が弊社に移転しますことを了承願います。

伝票番号	02792406
------	----------

作業報告書

平素は弊社医用製品をご愛用いただき厚くお礼申し上げます。ご依頼内容にもとづき、メンテナンス等作業（納品）を行いましたので、ご報告いたします。作業報告書記載事項内容及び留意事項をご確認の上、ご署名をお願いいたします。

お客様名 山口大学医学部附属病院		山口サービスセンタ 〒754-0013 山口県山口市小郡緑町5番2号 TEL 083-973-7677 FAX 083-973-7684	
様			

お客様ID 65195030000-111	受付番号 6587292	作業 CS	区分 2H	保証区分 保守契約	PJ番号 MC4022140101
--------------------------	-----------------	----------	----------	--------------	----------------------

装置名 MRT-3020/J9	設置室 MR検査室4	据付日 2018年12月27日
--------------------	---------------	--------------------

ご依頼内容 保守点検2024年12月/定期点検2024年12月	受付日 2019年1月11日	作業内容 定期点検について報告実施 詳細は点検報告書に記載
作業開始・終了時間		
開始 2024年12月30日09時00分		
終了 2024年12月30日10時00分		
時間内 0	時間外 1	往復 0
		合計 1
完了		

ユニット MRT-3020/J9	製造番号 J9B18Y2003	作業担当者 青木 航太 他0名
---------------------	--------------------	--------------------

使用部品		数量
1 以下余白	図番	
2	図番	
3	図番	
4	図番	
5	図番	

ご所属

ご署名

山根

お客様へ（留意事項のご説明）

- ※本作業（納品）に関するお問い合わせは、作業報告書記載の受付番号をお願いいたします。また、本作業が有料の場合、別途ご請求申し上げます。
- ※本作業及び本作業に付随して提供するサービス部品、資料等の物品は、お客様が日本国内で使用または費消されることを前提に販売・提供させて頂いております。輸出または海外に提供される場合には、輸出管理法により規制される場合がございますのでご注意ください。
- ※お客様の個人情報の取り扱いについて、以下の事項をご了承願います。
 1. 作業報告書記載作業の遂行に関連して、お客様よりご提示を受けましたお客様の代表者その他の役職員の個人情報（以下「お客様情報」といいます）につきましては、今後のお客様に対する保守サービス業務の遂行およびお客様に対する各種商品・サービスのご提供やご案内に使用させて頂きます。
 2. 弊社は、上記「1.」の使用目的の範囲内において、必要に応じて、お客様情報を弊社認定のもと、弊社が委託する会社へ開示、使用させて頂く場合がございます。
- ※交換修理に伴い発生しました使用済みサービス部品（作業報告書『使用部品』欄記載の使用部品の提供と交換に回収する使用済みサービス部品）につきましては、本作業の完了日をもって弊社が受領し、当該サービス部品の所有権が弊社に移転しますことを了承願います。

伝票番号	02634881
------	----------

MR装置 Vantage Galan 3T 定期点検報告書

第

2 回目

お客様システムNo.	65195030000-111		
お客様名	山口大学医学部附属病院		
室名	MR検査室4	SR No.	6587292
実施日	2024年12月27日	～	2024年12月30日
対象システム	MRT-3020/J9		
シリアルNo.	J9B18Y2003		
点検者	青木		

Canon

キヤノンメディカルシステムズ株式会社

お客様確認

山口

管理番号	測定機器名	校正有効期限年月
UKL-ID0136	フルークマルチメータ	2025年6月

特記事項

- 一部交換品は現地保管品使用
一部交換部品は同時に実施のバージョンアップに伴い交換

保守点検マニュアルNo.: 2Y900-731JA*A

	ユニット	項目	点検内容	結果・値	備考
電源ONの 状態で行う 作業 (1)	システム総合	L-1a	作業開始時のDQAを実施し、測定結果を確認する。	√	
		L-1b	DQAを実施し、中心周波数が以下の範囲内であることを確認する。 123.180 ~ 123.216 MHz	√	
		A-22	ユーティリティのウイルスチェックで、StatusにCAUTION(赤)がないことを確認する。	√	
		L-2	サイトパラメータをメディアにバックアップする。	√	
		L-3a	コントロールパッドのEMERGENCYボタンを押すと、コンソールモニタ上にエラーメッセージが表示されることを確認する。	√	
		L-3b	EMERGENCYボタンが操作された状態で、架台操作パネルのLEDがすべて消えていることを確認する。	√	
		L-4a	磁石架台(右)のEMERGENCYボタンを押し、コンソールモニタ上にエラーメッセージが表示されることを確認する。	√	
		L-4b	EMERGENCYボタンが操作された状態で、架台操作パネルのLEDがすべて消えていることを確認する。	√	
		L-5a	磁石架台(左)のEMERGENCYボタンを押し、コンソールモニタ上にエラーメッセージが表示されることを確認する。	√	
		L-5b	EMERGENCYボタンが操作された状態で、架台操作パネルのLEDがすべて消えていることを確認する。	√	
	磁石(コールドヘッド 交換等で磁石を消磁 したときに実施)	F-11	消磁したときは、ERDUボタン回路の健全性を確認する。 ・MSUPのERDUポート(X6)からERDUボタンケーブルを外すと、アラームボックスの“MAG STOP”のインジケータが点灯し、警報ブザーが鳴ることを確認する。 ・コンソールモニタ上にエラーメッセージが表示されることを確認する。 ・ERDUボタンケーブルをMSUPに接続し、ACKNOWLEDGEボタンを押すと、“MAG STOP”のインジケータが消灯し、警報ブザーが止まることを確認する。	適用外	
		F-9	消磁したときは、アラームボックスのERDUボタンの動作を確認する。 ・アラームボックスのERDUボタンを押すと、アラームボックスの“MAG STOP”のインジケータが点灯し、警報ブザーが鳴ることを確認する。 ・コンソールモニタ上にエラーメッセージが表示されることを確認する。 ・磁石内圧が上昇することを確認する(圧力上昇は、ハンディディスプレイで確認すること)。 ・ERDUボタンを回して元の位置に戻しACKNOWLEDGEボタンを押すと、アラームボックスの“MAG STOP”のインジケータが消灯することを確認する。	適用外	
		F-10	消磁したときは、撮影室のERDUボタンの動作を確認する。 ・撮影室のERDUボタンを押すと、アラームボックスの“MAG STOP”のインジケータが点灯し、警報ブザーが鳴ることを確認する。 ・コンソールモニタ上にエラーメッセージが表示されることを確認する。 ・磁石内圧が上昇することを確認する(圧力上昇は、ハンディディスプレイで確認すること)。 ・ERDUボタンを回して元の位置に戻しアラームボックスのACKNOWLEDGEボタンを押すと、“MAG STOP”のインジケータが消灯することを確認する。	適用外	

	ユニット	項目	点検内容	結果・値	備考
電源ONの 状態で行う 作業 (1)	システム総合	L-1a	作業開始時のDQAを実施し、測定結果を確認する。	√	
		L-1b	DQAを実施し、中心周波数が以下の範囲内であることを確認する。 123.180 ~ 123.216 MHz	√	
		A-22	ユーティリティのウイルスチェックで、StatusにCAUTION(赤)がないことを確認する。	√	
		L-2	サイトパラメータをメディアにバックアップする。	√	
		L-3a	コントロールパッドのEMERGENCYボタンを押すと、コンソールモニタ上にエラーメッセージが表示されることを確認する。	√	
		L-3b	EMERGENCYボタンが操作された状態で、架台操作パネルのLEDがすべて消えていることを確認する。	√	
		L-4a	磁石架台(右)のEMERGENCYボタンを押し、コンソールモニタ上にエラーメッセージが表示されることを確認する。	√	
		L-4b	EMERGENCYボタンが操作された状態で、架台操作パネルのLEDがすべて消えていることを確認する。	√	
		L-5a	磁石架台(左)のEMERGENCYボタンを押し、コンソールモニタ上にエラーメッセージが表示されることを確認する。	√	
		L-5b	EMERGENCYボタンが操作された状態で、架台操作パネルのLEDがすべて消えていることを確認する。	√	
	磁石(コールドヘッド 交換等で磁石を消磁 したときに実施)	F-11	消磁したときは、ERDUボタン回路の健全性を確認する。 ・MSUPのERDUポート(X6)からERDUボタンケーブルを外すと、アラームボックスの“MAG STOP”のインジケータが点灯し、警報ブザーが鳴ることを確認する。 ・コンソールモニタ上にエラーメッセージが表示されることを確認する。 ・ERDUボタンケーブルをMSUPに接続し、ACKNOWLEDGEボタンを押すと、“MAG STOP”のインジケータが消灯し、警報ブザーが止まることを確認する。	適用外	
		F-9	消磁したときは、アラームボックスのERDUボタンの動作を確認する。 ・アラームボックスのERDUボタンを押すと、アラームボックスの“MAG STOP”のインジケータが点灯し、警報ブザーが鳴ることを確認する。 ・コンソールモニタ上にエラーメッセージが表示されることを確認する。 ・磁石内圧が上昇することを確認する(圧力上昇は、ハンディディスプレイで確認すること)。 ・ERDUボタンを回して元の位置に戻しACKNOWLEDGEボタンを押すと、アラームボックスの“MAG STOP”のインジケータが消灯することを確認する。	適用外	
		F-10	消磁したときは、撮影室のERDUボタンの動作を確認する。 ・撮影室のERDUボタンを押すと、アラームボックスの“MAG STOP”のインジケータが点灯し、警報ブザーが鳴ることを確認する。 ・コンソールモニタ上にエラーメッセージが表示されることを確認する。 ・磁石内圧が上昇することを確認する(圧力上昇は、ハンディディスプレイで確認すること)。 ・ERDUボタンを回して元の位置に戻しアラームボックスのACKNOWLEDGEボタンを押すと、“MAG STOP”のインジケータが消灯することを確認する。	適用外	

	ユニット	項目	点検内容	結果・値	備考
電源OFFの状態で行う作業	コントロールキャビネット	A-1	コントロールキャビネットの筐体前カバーの防塵メッシュのほこりを掃除機で取り除く。	CL	
		A-2	コントロールキャビネットの筐体前カバーを開け、筐体内部にたまったゴミ、ほこりを掃除機で取り除く。	CL	
		A-3	コントロールキャビネットの筐体上面カバーを開け、電子端子台の電源ケーブル接続部に緩みがないことを確認する。	CL	
		A-4	コントロールキャビネット筐体上面の電源端子台にあるSPDの機能表示窓がすべて緑色であることを確認する。	CL	
	アンプキャビネット	A-6	アンプキャビネットの筐体前カバーの防塵メッシュのほこりを掃除機で取り除く。	CL	
		A-7	アンプキャビネットの筐体前カバーを開け、筐体内部にたまったゴミ、ほこりを掃除機で取り除く。	CL	
		A-8	アンプキャビネットの筐体上面カバーを開け、電源端子台の電源ケーブル接続部に緩みがないことを確認する。	V	
		A-9	アンプキャビネット筐体上面の電源端子台にあるSPDの機能表示窓がすべて緑色であることを確認する。	V	
		A-13	5Y周期で真空ポンプを交換する。	適用外	
		A-15	シムコイル電源のアンプモジュールのヒートシンクに付いたほこりをウェスで拭き取る。	V	
		A-16	シムコイル電源のGAIN STAGE2基板に付いたほこりを取り除く。	CL	
		A-17	シムコイル電源のSHIMCONT2基板に付いたほこりを取り除く。	CL	
	コンソール	A-23	ホストPCのほこりを掃除機で取り除く。	CL	
		A-24	1Y周期でホストPCの防塵フィルタを交換する。	R	
	傾斜磁場電源	B-1	筐体にたまったゴミ、ほこりを掃除機、ウェスで取り除く。	CL	
		B-2	傾斜磁場電源の入力・出力端子などに緩みがないことを確認する。	V	
		B-3	6M周期で水フィルタを交換する。	R	
	ファンボックス	E-7	ファンボックスの外装カバーを開けて、フィルタを清掃する。	CL	
		E-9	ファンボックスの外装カバーを開けて、1Y周期でフィルタを交換する。	R	
		E-10	4Y周期でファンボックスのファンをすべて交換する。	R	
	フィルタパネル	G-1	傾斜磁場用フィルタのメッシュ部のほこりを掃除機で取り除く。	CL	
		E-8	ファンボックス用貫通ダクトの銅メッシュをブラシで清掃する。	CL	
	架台	E-4a	架台端子台の電流端子接続部の緩みをチェックし、ペイントマークのズレがないことを目視確認する。	V	
		E-4b	架台傾斜磁場ケーブルがケーブル固定ブロックで固定されていることを確認する。	V	
		E-5	架台傾斜磁場ケーブルおよび傾斜磁場電源出力ケーブルの根本に断線が発生していないか目視確認する。	V	
		E-11	傾斜磁場コイル支持部の締結ボルトの緩みをチェックし、ペイントマークのズレがないことを目視確認する。	V	
		E-6	架台側面のカバーを開けて、ガントリーキャビネット下部のフィルタに目詰まりがないか目視確認する。	V	
		D-1a	ガントリーキャビネットの奥にある冷水マニホールド付近に水漏れがないことを目視確認する。	V	
	磁石(スーパーバイザリユニット含む)	F-6	2Y周期でバッテリーパックを交換する。	適用外	
		F-7	クエンチ配管の健全性を確認する。 ・磁石側クエンチ配管のドレイン穴が詰まっていないこと。 ・クエンチ配管の接続部にガタつき、ネジの緩みがないこと。 ・屋外のクエンチ配管排出口に障害物がないこと。 ・屋外のクエンチ配管排出口のドレイン穴が詰まっていないこと。	V	

	ユニット	項目	点検内容	結果・値	備考
電源OFFの 状態で行う 作業	寝台	H-1	寝台のブレーキ解除レバーを操作し、天板が手動にて動くことを確認する。	√	
		H-2a	寝台のフレキシブルカバーを上側退避し、油圧ホース、クランプ部に損傷などがないことを目視確認する。	√	
		H-4a	油圧シリンダロッドの摺動面に異常な傷や油漏れがないかを目視確認する。	√	
		H-4b	油圧シリンダ・油圧ポンプ、ホースの接続部に油漏れがないことを目視確認する。	√	
		H-2b	ケーブルクランプ部を目視確認する。	√	
		H-3a	寝台内部の汚れ、ほこりを清掃する。	CL	
		H-3b	カバーの天板走行部の汚れ、ほこりを清掃する。	CL	
		H-5a	上下動リニアガイドに汚れや異常がないことを目視確認する。 汚れや古いグリースが付着している場合は拭き取り、新しいグリースを塗布する。	√	
		H-5b	Xリンクセンターシャフト軸受けに汚れがないことを目視確認する。 汚れが付着している場合、汚れを拭き取り、新しいオイルを塗布する。	√	
		H-6a	Xリンクセンターシャフト軸受け固定ナットのペイントマークを目視確認する。	√	
		H-6b	シリンダラム固定ボルトのペイントマークを目視確認する。	√	
		H-6c	リニアガイドレール固定ボルトのペイントマークを目視確認する。	√	
		H-6d	リニアガイドブロック固定ボルトのペイントマークを目視確認する。	√	
		H-6e	Xリンクインナーアームブラケット固定ボルトのペイントマークを目視確認する。	√	
		H-6f	Xリンクアウターアーム軸受け固定ボルトのペイントマークを目視確認する。	√	
		H-10a	すべてのコネクタポートで、破損や内部にほこりがないかを目視確認する。 ほこりがたまっていれば清掃する。	√	
		H-10b	すべてのコネクタポートの蓋の開閉が重いなどの支障がないことを確認する。	√	
		H-12	天板をINリミットまで挿入し、リトラクタ内のペーシェントコール用エアチューブが正しく配管されていることを確認する。	√	
	PDU	J-1	分電盤のブレーカーをOFFしたあと、PDU上側のパネルを開け、ケーブルを揺らし、端子台接続部に緩みのないことを確認する。	√	
		J-2	SPDの機能表示がすべて緑色であることを確認する。	√	
	傾斜磁場コイル	D-4a	2Y周期で傾斜磁場コイルの冷却水およびウォータートリートメントを交換する。	適用外	
		D-5	2Y周期で水フィルタを交換する。	適用外	

	ユニット	項目	点検内容	結果・値	備考
電源ONの 状態で行う 作業 (2)	コントロールキャビネット	A-5	コントロールキャビネットの以下のファンが正常に動作していることを目視確認する。 ・筐体天面 ・Mainシャーシ下部	√	
	アンプキャビネット	A-10	アンプキャビネットの以下のファンが正常に動作していることを目視確認する。 ・筐体天面	√	
		A-11	アンプキャビネット内のホースコネクタ部、接続部に水漏れがないことを目視確認する。	√	
		A-12	RFアンプ正面の吸気口にリボン等を近づけ、リボンが吸いよせられることを確認する。 また、ファンからの異常音がないことを確認する。	√	
		A-14a	真空ポンプがタイマ運転で停止した直後に、圧力センサに表示されている到達真空度が以下の値以下であることを確認する。 -85 kPa	√	
		A-14b	排気口のプラスチック容器の中に水分がないことを目視確認する。	√	
		A-14c	真空ポンプから異音、モーターの異常な振動(ビビリ音)等がないことを確認する。	√	
		A-18	シムコイル電源背面のファンが動作していることを目視確認する。	√	
		A-19	配管キットが設置されている場合で、アンプキャビネットの冷却水IN側の圧力計の値が以下の値以下であることを確認する。 0.5 MPa	√	
		A-20	配管キットが設置されている場合で、冷却水の水温が、水温計で以下の範囲内であることを確認する。 18℃ ~ 22℃	√	
		A-21	配管キットが設置されている場合、RFアンプ用のフローメータで、冷却水の流量が以下の範囲内であることを確認する。 7 L/min ~ 10 L/min	√	
	傾斜磁場電源	B-4	筐体前面のカバー越しにファンからの異常音がないことを確認する。	√	
		B-8	設備配管で、傾斜磁場電源の冷却水IN側の圧力計の値が以下の値以下であることを確認する。 0.5 MPa	√	
		B-6	傾斜磁場電源用のフローメータで、冷却水の流量が以下の範囲内であることを確認する。 50 L/min ~ 52 L/min	√	
		B-5	冷却水の水温が以下の範囲内であることを確認する。 18℃ ~ 22℃	√	
		B-7	チラー内の水槽の水が、藻などの浮遊物やゴミで濁りや汚れがないことを目視確認する。	√	
	冷凍機	C-1a	冷凍機本体およびホースから水漏れがないことを目視確認する。	√	
		C-1b	設備配管で、冷凍機の冷却水IN側の圧力計の値が以下の値以下であることを確認する。 0.8 MPa	√	
		C-1c	設備配管で、冷却水の水温が以下の範囲内であることを確認する。 18℃ ~ 22℃	√	
		C-1d	冷凍機用のフローメータで、冷却水の流量が以下の範囲内であることを確認する。 6 L/min ~ 8 L/min	√	
		C-2	冷凍機コンプレッサの圧力計で、運転中の圧力が以下の範囲内であることを確認する。 19.0 bar ~ 20.0 bar	√	
		C-4	冷凍機コンプレッサ正面のステータスディスプレイで、冷凍機コンプレッサのアドソーバ運転時間が、据え付けまたは前回交換時から以下の時間以内であることを確認する。 30000時間	√	
		C-5	冷凍機コンプレッサのアドソーバ運転時間が交換時期に近づいたら、アドソーバを交換する。	√	

	ユニット	項目	点検内容	結果・値	備考
電源ONの 状態で行う 作業 (2)	傾斜磁場コイル	D-2	冷水装置から傾斜磁場コイルに配管されているバルブを閉じると、コンソールモニタ上にエラーメッセージが表示されることを確認する。 また、エラーメッセージ表示後はシステムが撮像禁止となることを確認する。	√	
		D-1b	架台の冷却水圧力計P1、P2の値を読み、圧力差が以下の範囲内であることを確認する。 $0.1 \text{ MPa} \leq (P1-P2) \leq 0.2 \text{ MPa}$ (1.0 kgf/cm ²) (2.0 kgf/cm ²)	√	
		D-4b	傾斜磁場コイルに配管されているバルブを閉じると、コンソールモニタ上にエラーメッセージが表示されることを確認する。 また、エラーメッセージ表示後はシステムが撮像禁止となることを確認する。	√	
		D-3a	架台の冷却水圧力計 (INLET側) の値を読み、以下の値以下であることを確認する。 0.7 MPa	√	
		D-3b	傾斜磁場コイルに供給される冷却水の水温が以下の範囲内であることを確認する。 14℃ ~ 16℃	√	
		D-3c	傾斜磁場コイル用の冷却水の流量が以下の範囲内であることを確認する。 19 L/min ~ 21 L/min	√	
		D-3d	架台下部リアカバー (右/左) を取り外し、傾斜磁場コイルマニホールド部に水漏れがないことを目視確認する。	√	
	架台	E-1	架台操作パネルのダイヤルスイッチで、インテリジェントモニタのEnvironmentページのLIGHTを操作すると、架台内照明がOFFを含む4段階に設定できることを確認する。	√	
		E-2	架台操作パネルのダイヤルスイッチで、インテリジェントモニタのEnvironmentページのFANを操作すると、架台内送風がOFFを含む3段階に設定できることを確認する。	√	
		E-3	架台操作パネルのアボートボタンを押すと、位置表示部に“Abort”が表示されボタンが点滅し、同じボタンを再度押すと、位置表示部の“Abort”が消えて数値が表示されることを確認する。	√	
	寝台	H-10	架台操作パネルの寝台操作に関する各機能スイッチが正しく動作することを確認する。	√	
		H-8	架台操作パネルのIN/OUTスイッチを操作し、天板がINリミット/OUTリミットで停止することを確認する。	√	
		H-9	架台操作パネルのUP/DOWNスイッチを操作し、寝台がUPリミット/DOWNリミットで停止することを確認する。	√	
		H-11a	ペーシエントコイルの送気球を握ると、操作室でブザーが鳴り、コンソールのモニタ上にメッセージが表示されることを確認する。	√	
		H-11b	ペーシエントコイルのブザーが鳴っている状態で、操作室のコントロールパッドの[TALK]ボタンを押すと、ブザー音が止まることを確認する。	√	
		H-11c	天板をリトラクタ接続部が見える位置まで挿入した位置で、ペーシエントコイルの送気球を握ると、操作室でアラームが鳴ることを確認する。 また、その位置から天板をINリミットまで100 mm間隔で移動させた位置でも、ペーシエントコイルのアラームが鳴ることを確認する。	√	

	ユニット	項目	点検内容	結果・値	備考
電源ONの 状態で行う 作業 (2)	磁石	F-1	現在の磁石のLHe貯液量を確認し、6か月前のLHe貯液量との差が以下の範囲内であることを確認する。 ±0.2%未満(前回の貯液量と変化がないこと)	√	
		F-2	6か月後のLHe貯液量が以下の値以下にならないことを確認する。 60%	√	
		C-3	スーパバイザリユニットに接続したハンディディスプレイまたは、インナービジョンのMSUPログでPressure heater average powerのwatt値が正の値(0を含まない)であることを確認する。	√	
		F-3	スーパバイザリユニットに接続したハンディディスプレイまたは、インナービジョンのMSUPログで、磁石内圧の値が以下の範囲内であることを確認する。 15.29 psiA ~ 15.30 psiA	√	
		F-4	アラームボックスの以下のインジケータが正しく表示されていることを確認する。 ・LINE POWER : 緑 ・HELIUM LEVEL : 消灯 ・PRESSURE : 消灯 ・COMPRESSOR : 緑 ・EIS : 消灯 ・COMS.FAULT : 消灯 ・SYSTEM ON : 消灯	√	
		F-5	アラームボックスの以下のインジケータが正しく表示されていることを確認する。 ・BATTERY LOW : 消灯	√	
		F-8	アラームボックスの以下のインジケータが正しく表示されていることを確認する。 ・MAG STOP : 消灯	√	
	RFコイル	I-1	全身用QDコイルで、腹部のB1強度むらが以下の範囲内であることを確認する。 3.3° ~ 5.3°	√	
	酸素モニタ	K-4	正面のCALボタンを押すと、ブザーが鳴り、酸素濃度が以下の範囲内に校正されることを確認する。 20.9±0.1%	√	
		K-5	1Y周期で酸素モニタの電池を交換する。	R	
		K-6	3Y周期で酸素モニター式を交換する。	R	
		K-1	酸素濃度の表示が以下の値以上であることを確認する。 19.5%	√	
		K-2	表示部の電池アイコンにて、電池残量が低下していないことを確認する。	√	
		K-3a	酸素モニタのセンサ部に酸素モニタ動作確認用ガスを吹き付けて酸素濃度を低下させ、酸素濃度が以下の値未満になると、酸素モニタの警告ブザーが鳴り、換気装置が作動することを確認する。 19.5%	√	
		K-3b	酸素モニタの警告ブザーを鳴らした状態から、センサ部に酸素モニタ動作確認用ガスを吹き付けるのを止めると、酸素濃度が上昇し、以下の値以上になると、酸素モニタの警告ブザーが鳴り止み、換気装置が停止することを確認する。 19.5%	√	

	ユニット	項目	点検内容	結果・値	備考
電源ONの状態で行う作業 (2)	システム総合	L-6	傾斜磁場波形(渦電流波形)の確認として「レンジチェック」を実施し、1次、0次の残留渦がそれぞれ以下の値以下になることを確認する。 1次渦:0.2 0次渦:10	√	
		L-7	「S/N試験(NEMA)」を実施し、S/Nが以下の値以上であることを確認する。 110	√	
		L-8	「均一性試験(NEMA)」を実施し、均一性の測定値が以下の値以上であることを確認する。 0.90	√	
		L-9	分電盤で、システムに接続している電源電圧が以下の範囲内であることを確認する。 360 ~ 440 V	√	
		L-10	定期交換部品と消耗部品が適正に交換されていることを確認する。	√	
		L-11	安全標識が撮影室の入口に掲示されていることを目視確認する。	√	
		L-12	SFTモードへ変更した場合は、クリニカルモードへ戻しシステムリポートを行う。 次に投光器をつけ作業終了時のDQAを実施し、測定結果を確認する。	√	
		L-13	システムの日時を確認し、1分以内のずれに収まるように修正をする。	√	
点検および保守の方法(オプション)	RFコイル	Z-1	各RFコイル付属の据付・サービスマニュアルに従い点検が実施されていることを確認する。	√	
	寝台	Z-2	フットスイッチユニットを操作し、IN/UP、OUT/DOWNが正常に動作することを確認する。	√	
		Z-3	フットスイッチの外観に欠けや割れ等の破損がないことを目視確認する。	√	
	同期ユニット	Z-4	無線心電同期ユニットの送信機バッテリーが2Y周期で交換されていることを確認する。交換周期の場合は交換する。	√	
		Z-5	無線脈波・呼吸同期ユニットの送信機バッテリーが2Y周期で交換されていることを確認する。交換周期の場合は交換する。	√	
	セカンドコンソール	Z-6	セカンドコンソール付属の据付・サービスマニュアルに従い点検が実施されていることを確認する。	適用外	
	AiCE MR再構成処理ユニット	Z-7	AiCE MR再構成処理ユニット付属の据付・サービスマニュアルに従い点検が実施されていることを確認する。	√	
	MRエラストグラフィ	Z-8	MRエラストグラフィ付属の据付・サービスマニュアルに従い点検が実施されていることを確認する。	適用外	
	Tablet UXアプリケーション	Z-9	有効期間内に再度SSL/TLSサーバ証明書を発行する。	適用外	
	無停電電源装置(UPS)キット	Z-10	無停電電源装置(UPS)キット付属の据付・サービスマニュアルに従い点検が実施されていることを確認する。	√	
		Z-11	UPS本体が5Y周期で交換されていることを確認する。交換周期の場合は交換する。	√	